

シリーズ **土地改良**のあしあと **名張市土地改良区** (名張市)



宇陀川頭首工



青蓮寺ダム



新田円形分水



平成 23 年度 全土連金章受賞

～ 10 組織を 1 つに統合～

名張市は三重県の西部に位置し、近畿・中部両圏の接点にあることから、古くは万葉の時代から東西往来の要所、宿駅として栄えてきました。

国直轄河川木津川上流域で、名張川、宇陀川上流には青蓮寺ダム、比奈知ダム、室生ダムがあり又、県河川等により利水が確保され、かんがい用水には恵まれています。

以前、本市では土地改良区が 10 組織あり、「宇陀川用水」、「名張市北部」、「赤目」の 3 つの土地改良区は組合員が 300 名以上いましたが、「滝の原」は約 150 名、その他 6 つの土地改良区 (布生、八幡、蔵持、国津、短野・下三谷、鶴山) は全て 100 名以下の小さな組織であったため、今後組合員の高齢化や後継者不足、農業収益の低下等による土地改良区組織の弱体化や財政基盤の脆弱化が危惧されていました。

こうした情勢を受け、市内 10 改良区により「名張市土地改良区統合整備推進協議会」を平成 17 年 1 月に設立し、改良区の統合整備について具体的な協議を進めてきました。また、「合同事務所」を開設し、土地や組合員情報のデータベース化、経理など事務処理の電算化等事務の合理化・効率化に

向け取り組んできました。

平成 20 年 8 月に市内 10 改良区が統合したことにより、「名張市土地改良区」として現在、受益面積 681.3ha、組合員 1,514 名、理事 25 名、監事 3 名で構成されています。

このように、土地改良区が事務統合し、規模の大きな運営基盤のしっかりした組織となったことにより、効率的な事務が行え、また県・市との連携も強化され、老朽化した施設の改修や更新についても広範囲で一括して補助申請することができ、補助率の高い事業に採択されるなど大きな効果を得ています。



収穫間際の伊賀山田錦